

アーツカウンシル東京 令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成 対象事業決定のお知らせ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京では、東京の芸術文化の魅力を向上させ、世界に発信していく創造活動や、地域の文化の振興、社会や都市の様々な課題に取り組む芸術活動を支援しています。このたび、令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成の対象事業を決定いたしました。今回は、195件の申請があり、20件を採択いたしました(採択率 10.3%)。助成予定総額 11,950 千円です。

■ 令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成 申請・採択件数

	申請件数		採択件数	
	個人	団体	個人	団体
音楽	17	34	1	3
演劇	13	29	1	2
舞踊	6	13	2	2
美術・映像	40	13	5	0
伝統芸能	4	8	2	0
複合	6	12	0	2
合計	86	109	11	9

・対象期間 : 2022年4月1日以降に開始し、2022年12月31日までに終了する事業

■ 令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成 採択事業 一覧

申請 195 件、採択 20 件

(単位:千円)

活動分野	活動内容	実施場所	団体/個人	申請者名	事業名	助成金交付決定額
音楽	都内での芸術創造活動	都内	団体	パレイドリアン	山本和智 個展	1,000
				オペラ団体ABQ	第2回 ショスタコーヴィチ歌曲個展	1,000
				Old instruments Research Project	Virtuoso Dulcian Music(仮)	1,000
			個人	大関一成	オリジナル 「FAKE—What is genuine? What is fake? Between,—」大関一成 バストロンボーン リサ イタル(仮)	300
演劇	都内での芸術創造活動	都内	団体	ハイドロブラスト	最後の芸者たち	1,000
				演劇ユニットにもじ	にもじ第二回公演「crossing」(仮)	650
			個人	安藤 奎	サイは投げられた	300

活動分野	活動内容	実施場所	団体／個人	申請者名	事業名	助成金交付決定額
舞踊	都内での芸術創造活動	都内	団体	オドリバ	focus.01浅川奏瑛『生前葬(仮)』	1,000
				Arche	Species一種－ Chapter.2 動的平衡	1,000
			個人	宮脇有紀	アトリエ第Q藝術での宮脇有紀 新作ソロダンス2022「光彩陸離」(仮)	300
	国際的な芸術交流活動	海外	個人	黒木裕太	Rootedness and Beyond	300
美術・映像	都内での芸術創造活動	都内	個人	木村あさぎ	『蹄』上映会2022(仮)	300
				岡本大河	S(仮)	300
				吉原遼平	Good Vibrations(仮)	300
				渡辺志桜里	渡辺志桜里	300
				周浩	周 浩	300
伝統芸能	都内での芸術創造活動	都内	個人	内間安希	琉球古典音楽 四季の歌会(仮)	300
				青木滉一郎	青木滉一郎・礼子 尺八&箏 Duoコンサート	300
複合	都内での芸術創造活動	都内	団体	紙カンパニーproject	新作公演「エルナニ事件2022」の捏造およびアーカイブの制作事業(仮)	1,000
				長井望美×目黒陽介企画	長井望美×目黒陽介企画「つくり、つかう」展	1,000

■ 令和3(2021)年度 第3回 スタートアップ助成 採択結果の概況

スタートアップ助成の第3回目となる本公募では、第1回、第2回で不採択となった事業の再申請が2割程度あり、申請内容がブラッシュアップされ、採択に至ったものも複数ありました。本助成では、都内での事業を初めて企画・主催する新進の個人・団体によるトライアルの事業、過去数回の実績を経て企画内容やキャリアの拡充を図るステップアップの事業、さらに、個人として実力を認められている芸術家が団体を結成し、新たな企画やプロデュースに着手する事業など、積極的なチャレンジを行う事業が採択となっています。また、事業の目指すべき目的が明確であり、それを実際にどのように具体化するのかが示されており、実現にあたっての予算やスケジュールが適切に計画されているものが採択となっています。

一方、事業の目的と事業内容が適合していないものや、出演者やプログラム内容に未確定要素が多く事業の具体性に欠ける申請は、採択には至りませんでした。また、本助成では、申請者は申請事業の主催者であることが要件となっていますが、申請者と主催者が異なっている申請が目立ちました。申請書の作成にあたっては、公募ガイドラインの申請要件や審査の観点等を事前に確認していただきますようお願いいたします。不採択となった事業を再度申請することも可能です。令和4年度は4回の公募を予定しています。具体的に計画の練られた意欲的な申請に期待します。

● 音楽分野

音楽分野の申請傾向として、ワールドミュージックやジャズ、ポップスといったクラシック以外の分野に係る申請比率が減少しています。今回採択となった事業も結果的にクラシックや現代音楽に関する企画となっていますが、本助成において特定の音楽分野に支援の対象を限定する趣旨はありません。引き続き幅広くかつ多様なジャンルからの挑戦を期待しています。審査においては、申請事業が今後、申請者の創造活動の展開につながるチャレンジ性のあるものであり、具体的に企画が練られているかどうかをポイントを置いています。また、音楽分野で経験と実績のあるメンバーが構成する団体の場合は、申請事業が構成メンバーのこれまでの活動から踏み込んだチャレンジ性や独自性のあるものであるかどうかに着目しました。

● 演劇分野

全体の約 5 割が初申請でした。20 代・30 代からの申請が増加しており、全体の 7 割を超えています。小劇場演劇を中心に、ミュージカル、ラジオドラマ等音声作品、ワークインプロGRESSなどバリエーション豊かな申請がありました。

他分野でキャリアを積んだ申請者がその経験を活かし独自の発想やコンセプトを実践するチャレンジ性の高い事業や、学生等若い世代からの創作への高いポテンシャルと継続的な活動への計画が具体的に示された事業を採択しています。また、採択事業では、創作のキャリアや実績と申請内容とに乖離がなく、予算計画や人員体制が具体的に整った事業であることに加え、作品・企画の目的や取り組みを丁寧に言語化した申請であることが共通しています。採択団体の事業では、設立目的や活動趣旨と申請事業に一貫性があることが特徴です。

● 舞踊分野

20 代と 30 代の申請者が多く、若手アーティストによる新作公演の企画が多くみられました。コンテンポラリーダンスが最も多く、次いでクラシックバレエ、ストリートダンス、社交ダンスなど幅広いジャンルからの申請がありました。前回と同様に事業計画が十分に練られた申請が増えており、また内容をブラッシュアップした再申請も多数ありました。独自性と実現性が高く本助成を受けることで新たなステップを踏むことが期待できる申請が採択されました。またダンス環境の整備など社会に目を向けた視野の広い申請もありましたが、もし目的を芸術創造環境の基盤整備や社会的な課題への取り組みに特化する場合は「東京芸術文化創造発信助成 カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業」又は「芸術文化による社会支援助成」にご申請いただける可能性がありますので、各々の公募ガイドラインをご参照ください。

● 美術・映像分野

申請 53 件中 5 件の採択となり、前回より若干採択率が上がりました。申請者の年代は 20 代から 30 代が全体の 7 割となっています。団体からの申請では、本助成の趣旨に適合しない申請や、申請団体としての公開活動の実績が明確に示されていないケースも散見されました。本助成では、申請要件として、申請団体自体による公開活動の実績が必要です(但し、主催でなくても可)。申請団体の構成員や、申請団体の前身の団体による公開活動は実績とは認められませんのでご注意ください。

採択された申請の中では、以前不採択となった申請者からの新たな申請で、事業計画をより練りこみつつ今回チャレンジするポイントを明確に示したものが複数ありました。他方、意欲的な取り組みであっても、事業期間中の活動が作品制作のためのワークショップやリサーチのみで、公開についての計画が十分でない事業については採択に至りませんでした。

● 伝統芸能分野

申請数は 12 件ながら、能楽、講談、落語、日本舞踊、琉球古典音楽、尺八、小唄、民謡、現代邦楽他、幅広い申請がありました。20 代から 30 代の申請は約 4 割にとどまり、伝統芸能分野ではない分野でキャリアを積んだ申請者が伝統芸能分野に挑戦するといった例が複数みられました。また「国際的な芸術交流活動」の活動枠での申請もありました。

今回の採択事業では、当該種目において次代を担うに十分な経験と修練を積んでおり、今後も継続的、発展的な活動の見込まれる新進芸術家による積極性、独自性の高い企画が対象となっています。また、伝統芸能の普及を主な目的とする事業や市民の体験事業としての趣旨の強いものは、基本的には当事業の対象にはなりませんのでご注意ください。

● 複合分野

「核となる分野を特定できない芸術活動」を対象とする複合分野には 18 件の申請がありました。申請者は団体が 3 分の 2 を占め、申請内容は多岐にわたっています。複数領域のアーティストが協働して実験的な表現手法を開拓することで、リアルな公演体験とアーカイブとの関係性を問い直す企画、及び、人形美術家とジャグラーのコラボレーションにより、人形やジャグリング道具など「もの」のもつ意味を再考する美術展が採択されました。

■ 審査プロセス

以下の審査プロセスによって、採択を決定しています。

提出された申請書類をアーツカウンシル東京が精査し、事前調査や外部有識者の意見を踏まえて企画助成課長が評価案及び採択原案を取りまとめます。その後、アーツカウンシル東京機構長の審議を経て、公益財団法人東京都歴史文化財団が決定します。

令和4(2022)年度 第1回 スタートアップ助成の申請受付期間は2022年3月30日(水)～4月14日(木)消印有効です。現在、公募ガイドラインを公開しています。

申請書類は3月30日(水)よりダウンロードできます。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/what-we-do/support/grants/startup-grant-program/51103/>

<本事業に関するお問い合わせ>

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画室 企画助成課 担当：玉虫、大越
TEL：03-6256-8431 E-mail：startup@artscouncil-tokyo.jp

<本リリースに関するお問い合わせ>

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 広報担当：糸園、圓城寺
TEL：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp